

令和7年度岩手県後発医薬品安心使用促進協議会 会議録

1 日時

令和8年1月30日(金) 10時00分～11時10分

2 場所

エスポワールいわて 3階 特別ホール

3 出席者

(1) 構成員

松浦 誠 構成員(会長)、木村 宗孝 構成員、上原 豊 構成員(副会長)、畠澤 昌美 構成員、山内 文俊 構成員、朝賀 純一 構成員、鶴田 剛 構成員、川俣 知己 構成員、遠藤 泰亮 構成員、友部 純一 構成員、関口 みどり 構成員、白畑 政憲 構成員、上山 裕人 構成員

(2) 事務局

保健福祉部健康国保課総括課長 千葉 智貴、薬務課長 千田 浩晋、主任主査 近藤 誠一、主任 小田 哲也、技師 藤田 健一朗

4 会議の概要

(1) 開会

(2) あいさつ(千葉総括課長)

(3) 構成員紹介

(4) 会長選出

前会長の三部構成員の退任につき、構成員の互選により、松浦構成員を会長に選任した。

(5) 議題

ア 後発医薬品の安心使用促進に係る国の取組等について

事務局が資料1及び参考資料1～5に基づき説明した。

[質疑・意見等]

特になし

イ 後発医薬品の安心使用促進に係る県の取組について

事務局が資料2に基づき説明した。

[質疑・意見等]

○ (畠澤構成員)

後発医薬品の促進にはずっと取り組んできた。流通関係で様々なことがあったが、それ以外の事項として選定療養では患者さんに御迷惑をおかけしている部分がある。

この部分で何か改善できないものかと思うが、現状を見ればなかなか難しいところもある。

薬剤師会としては引き続き後発医薬品の促進に向けて取り組んでいきたい。

○ (上山構成員)

後発医薬品の使用促進等に関するポスターを医療局内でも掲出しているが、今後は選定療養の割合が増える可能性があるのでより重要になると思う。岩手県は後発医薬品の使用率が高いが、選定療養の情報も加えながら取り組んでいく必要があると思う。

○ (朝賀構成員)

岩手医科大学附属病院でも後発品への置き換えに積極的に取り組んでおり、バイオシミラーも積極的に取り組んでいる。引き続き取り組んでいきたいと考えている。

○ (木村構成員)

岩手県は全国で第3位という状況で、後発医薬品の使用は概ねうまくいっているのではと思っている。バイオシミラーについては、適応などを含めて全国的な課題があるのではないかと思う。

○ (上原構成員)

歯科領域でも、ジェネリック医薬品の問題は安定供給だと思う。また、使用促進よりも選定療養の理解醸成が重要だと思う。

ウ 日本ジェネリック製薬協会の取り組みについて

川俣構成員が資料3に基づき情報提供した。

[質疑・意見等]

○ (木村構成員)

医療機関では統合やグループ化が進んできており、2000年には9200くらいあった病院が現在8000まで減少している。

明らかに日本の製薬会社は多いという話は5、6年ほど前の検討会でもお話ししたことがあるが、その後、再編統合などで減ってきたのか。

また、この会社ではこの製品を製造するようにというようなガバメントが効くような形になれば安定供給にも良い効果が出ると思うが、現状はどうか。

○ (川俣構成員)

エーザイの子会社のエルメッドエーザイという会社があったが、後発医薬品事業を終了するということで日医工に売却し、その後にアンドファーマという会社に統合する形で進んでいる。

第一三共エスファも第一三共はクオールに売却し、大原薬品工業もジェネリック医薬品事業を終了するということで、ジェネリックから撤退する企業は増えている。

ジェネリック医薬品を製造している会社は全部で176社あるが、100品目以上ジェネリックを製造し、ジェネリック医薬品を主体として製造している会社は実は21社しかない。

ジェネリック医薬品を主として供給している会社の数はそれほど多くはないが、現状でも少し多いと思っており、再編統合は続いている。

ジェネリック医薬品市場はこれまで年々伸びてきた。伸びてくるところには当然参入する会社は多かった。今後は成熟する市場となってくると思うので、整理統合されていくことにもつながっていくと思う。

これまで日本でのジェネリック医薬品の供給のことしか考える余地がなかったが、将来的にはアジアやグローバルに医薬品を提供できる企業に成長していくことも考えており、それによってジェネリックメーカーの適正な数が出てくると思う。

○ (木村構成員)

連携協力が進んでいるということだが、製薬企業の数自体がそれほど大きく減ってはいないということでおいか。

○ (川俣構成員)

1年間で5社減少した。今後、さらに減少する方向になると思う。

○ (川俣構成員)

私どもも、市場が2030年度までは1.3%上昇して、後発医薬品のシェア率が90%で上げ止まる事を前提としている。

しかし、国の制度改正により長期収載品の薬価をジェネリックと同じにするタイミングを前倒しにすることや、選定療養制度の負担の拡大、オーソライズドジェネリックを今後は先発と同じ薬価にする等の改正が行われることによってジェネリック医薬品市場の規模拡大が続き、ジェネリック製薬企業が目指すべき到達点がどんどん先に進む状態となる。

また、後発医薬品調剤体制加算の廃止が検討されているが、制度改正によって逆に規模が縮小することも考えられるため、ジェネリック業界ではどのくらいの設備投資が必要かの判断に迷う状況もある。

○ (木村構成員)

ジェネリックで使っている薬は比較的安価な薬が多いが、値段が高い新薬がたくさん上市されている。高価な新薬が保険を圧迫しているところがあると思う。

新薬でもあまり効果が認められないものについては値段を下げるべきだと思う。

抗がん剤や免疫薬など、価格が非常に高い薬が出てきているが、これらの医薬品にジェネリック企業が参入する方向にあるのか。

○ (川俣構成員)

ジェネリックの使用促進の取り組みにより、新薬メーカーの利益を押し下げてきた部分もあり、新薬メーカーはより高価な新薬の開発に力を注ぎ、結果として価格の高い医薬品がたくさん上市してきたもの。

その医薬品の特許が切れればジェネリック医薬品に切り替わっていく形になるが、現在大きな問題になっているのがバイオ医薬品で、単価が何十万何百万という製品であるため、これらがバイオシミラーに切り替わるまでにどのくらい販売できるかが重要になってくると思われる。

中医協では費用対効果の評価をすることについて議論しようとしているが、反対意見もある状況。どのような医療が適切な医療かについて、費用面も考慮した上で関係者の皆様に考えていただく必要があると思う。

なお、抗がん剤や免疫薬などの薬についても、特許切れのタイミング等でジェネリックとして提供できる。

工 協議会構成機関等の取組について

各構成員が資料4に基づき情報提供した。

[質疑・意見等]

- (松浦構成員)
 - 一部の講義科目において後発医薬品について学生に教授している。
 - 今後も引き続き取り組んでまいりたい。
- (畠澤構成員)
 - 研修会等で引き続き進めていきたいが、後発医薬品調剤体制加算の廃止により大きく取り組みが変わってくる可能性もあるので、状況を注視しながら検討していきたい。
- (鶴田構成員)
 - 医薬品卸業企業としては、東北に工場がある後発メーカーとの情報共有が必要だと考えており、引き続き取り組んでいきたいと考えている。
- (朝賀構成員)
 - 国の目標である後発医薬品の金額シェア65%以上について、当院でも達成が見込まれる。
- (遠藤構成員)
 - 岩手県の後発医薬品使用割合全国第3位が示すとおり、ジェネリックへの理解が進んでいるとは思う。必要に応じて会報に掲載し、会員の方々に啓発していきたいと考えている。
- (友部構成員)
 - 令和7年度の取り組み状況として、ジェネリック医薬品の使用促進関係はこれまでに引き続き車内広告として、東北本線、いわて銀河鉄道、岩手県交通でポスター掲示をしているところ。
 - 新たなバイオシミラーの使用促進関係として、全国健康保険協会のレセプトデータを用いたバイオシミラー使用状況分析レポートを作成した。
 - 本県の加入者は約37万人で、県内の約1/3の方の状況を把握している。データを各都道府県、全国、二次医療圏別、医療機関の分析をした。
 - このデータを元に、使用数量の多い医療機関に訪問させていただくこととしており、今年度は6医療機関訪問する予定であり、これまで4医療機関を訪問させていただいた。
 - 普及のネックとなっている事項をお伺いし、保険者で何ができるか御意見をいただいて来年度の取り組みにつなげていきたいと考えている。
 - 来年度の取り組みとして、医師や薬剤師が患者へ説明する際に使用するリーフレットを作成して配布したいと考えている。
- (関口構成員)
 - 後発医薬品利用差額通知を、県内34保険者のうち33保険者から依頼をいただいて作成している。
 - また、パンフレット等を作成して各市町村の活動にお役立ていただいている。
 - 今年度からバイオシミラーに関する周知として、医療費通知に周知文を載せる取り組みを行っている。

差額通知書の発行状況については、岩手県は後発医薬品の普及が進んでいることもあるが、選定療養等によってかなり件数が少なくなっている。昨年に比べて1/3の通数となっている。

○ (白畠構成員)

医療局で推奨後発医薬品を選定し、リストを元に切り替えの検討を行い、随時切り替えを行っているところ。

バイオ医薬品についても、医師の協力もあり多く採用できている。

○ (上山構成員)

医療局で推奨後発医薬品を継続して選定している。バイオ後継品を含めて継続して選定を行っている。

才 その他

特になし。

5 閉会